【　新人所員紹介　】

社会言語学の「正常化」に向けて

外国語学部 英語英文学科　　源　邦彦

このたびは言語研究センターの一員としてお迎えいただき、心から感謝の意申し上げます。まずはご挨拶として、わたくしの専門分野と研究テーマの関連性について紹介いたします。

わたしの専門分野は社会言語学です。その基盤にはBlack Studiesが横たわり、わたしにとってこれら両分野は不可分の関係にあります。Black Studiesの目標の一つは、米欧白人社会が構築してきた有色人種に対する人種主義的科学知識体系を脱構築し、アフリカ人奴隷子孫の認識論から出発する知識体系を構築することです。このような基盤から生成されるわたしの目指す社会言語学とは、ユーロセントリックで非政治化、物象化された既存の社会言語学に人間社会中心の言語を取り戻し、支配、搾取、抑圧という基本的社会構造のなかに組み込まれた言語使用の分析を可能にするものです。

このような視点から現在三つの研究プロジェクトを行っています。最初の二つは社会言語学、当分野に基本的枠組みを提供する分野の一つである言語学の各々を批判人種理論的に再考することです。最後の一つはそれら二つの領域の交点に位置づけられるケーススタディーとしてジャマイカにおける社会主義的言語政策の実践例を調査しています。これらのプロジェクトを貫く共通の課題は、大局的には、米欧白人集団による経済政治的搾取を合理化すべく一八世紀半ばから構築されてきた自然科学、社会人文科学を「正常化」することにあります。とりわけ、白人以外の集団やその他マイノリティーの経験とイデオロギーに立脚した社会言語学の構築に貢献することがわたしの研究者としての使命であると考えています。

もちろんこのような作業は個人には限界があります。言語研究センターの皆様からのご助言も賜りつつ、この目標に少しでも近づくことができるよう怠ることなく努めてゆく所存です。研究者としてはようやくスタート地点に立った未熟な小生ですが、どうぞこれからもご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。